

平成 26 年度第 3 回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 会議録 要旨

日時：平成 27 年 3 月 11 日（水）18：00～19：20

場所：402 会議室

出席者：別紙（資料 3）のとおり（森島委員、佐藤委員が欠席）

（事務局）丸山障害者福祉課長、村田課長補佐、杉内係長、久木田職員、庄崎職員

1 議題

（1）意見公募手続（パブリックコメント）の結果について

（事務局） 資料 1 のとおりで、各意見や質問に対して各団体や個人に対して直接回答することはないが、行政側の考え方や回答内容を「回答（案）」として記載した。

（委員） パブリックコメントは一つの結果としては然るべきだが、他の方針や意見とのバランスを取っていかなければならないので、いくつかの意見を計画へ反映してもらった。また、「回答（案）」という形でそれぞれの意見や質問に対して回答内容を作成している。パブリックコメントに対して、これは反映した方が良いなど、意見等があればお願いしたい。

（委員） パブリックコメントを実施して計画に反映させるのは難しい作業なのに、よくやったと思う。

（委員） どうしてもあっさりした表現になってしまうが、例えば、ア-No1 回答（案）に「～必要に応じて見直しを図ってまいります。」とあるが、目標値を変える事ばかりに注力するのではなく、そのプロセスや体制を意識して PDCA を実行すれば実のあるものになると思う。また、イ-No1 回答（案）に「国の基準が明確化したら～」とあるが、国の基準が出る前にも意識を持って事業者と協力して取り組んでいってほしい。具体的には、資料 2 P.10 \*注 3 に「ナビゲーションセンター」について書かれており、私はこのメンバーとして具体的な対応策を考えているところである。例えば、ダイレクト B の問題については、学校の先生や事業者、自治体職員が協力して考えていかなければならない問題なので、職員の派遣などについて配慮してもらえればと感じている。

（委員） ア-No1 回答（案）「～成果目標や数値目標については、年に 1 回実績を把握し、分析・評価を行う～」というのは本委員会の役割なので、是非各委員からの積極的な意見を伺えればと思う。委員みんなの意見を反映して計画を作っていきたいと思っている。

- (委員) 回答(案)の冒頭に「ご質問にお答えします。」と書いてあるものとないものの違いは？
- (事務局) 質問と意見に分かれていたので、質問形式のものについては。「ご質問にお答えします。」と記載した。
- (委員) ウーNo2にある居住の「質」を向上する案としては、職員数増員や家賃補助を行なったりするのは当然の事だが、実際に支援している現場に行って聞く話を踏まえると、支援者の質という視点では支援者への研修も必要だと感じている。

(2) 第4期障害福祉サービス計画(最終案)について

- ・計画案からの修正箇所について

- (事務局) 前回の内容からの変更点は以下のとおり。
- ①パブリックコメントの内容を反映(資料1-2(5)アの2ヶ所)
  - ②県の最新の福祉計画(平成27年2月版)の内容に差替え  
資料2 P.4、6、8、11、13、14の「県の考え方」を修正したが、本市の数値目標に影響するものは無かった。
  - ③県からの指示、法令改正に伴う修正
    - ・資料2 P.16、23、24の短期入所について「福祉型」と「医療型」に分けて記載
    - ・資料2 P.59~61の難病対象疾患について最新の内容を反映
  - ④関係各課からの意見を反映
    - ・資料2 P.38、39 成年後見制度について分かりやすく修正
    - ・資料2 P.39イ「平成26年度見込」について法人への委託業務の中で実施しているため、未実施から実施へ修正
  - ⑤数字の転記・集計ミス、誤った表現などを修正  
資料2 P.79の表について、一月当たりの実績と各年度末までの導入実績に分けてわかりやすく修正
- (委員) 特に議論すべき修正箇所はないと思うが、意見等何かあればお願いしたい。
- (委員) 資料2資料編 P.10「虹の子ハウス」は今年3月にグループホーム「虹の子ハウス(クラッシューズ)」に変わったので修正してほしい。
- (事務局) 資料2は今年3月発行予定なので、修正する。

- ・資料編について

- (事務局) 資料編には関連条例や規則、委員名簿、関連施設等を載せている

が、他にも載せた方がよい資料等があればご意見いただきたい。

(委員) 鎌倉市障害者福祉計画について、この内容で了承してもらえればと思っているが、もし何か気づいたことがあれば、別紙にて平成27年3月26日までに障害者福祉課へ連絡してほしい。

最後に、今年一年の感想など、各委員から一言ずつ発言願いたい。

(委員) 委員として参加して、自分自身が勉強になることがあった。県の計画も並行して作っていたので、鎌倉市の計画は県と地域の特性をまとめて作られた計画だと感じている。

(委員) 法改正に振り回される部分もあるが、少しずつ前進していきたい。本委員会の事前送付資料はもう少し早めにもらえると助かる。

(委員) 地域活動支援センターについて、以前よりも柔軟に利用できるようになったと感じている。一般就労が決まった利用者が休みの日に来所したいと言ったことがあり、地域活動支援センターが就労を支える場所になり得るかもしれないと思ったのと同時に、障害者を地域みんなで支える仕組みづくりが少しずつ出来てきているのではと感じた出来事だった。このように、利用者の方々を地域で支えるために良い計画が立てられればと思っている。

(委員) 地域移行について、中身のあるものとして数値目標が達成されていくことが大切だと思うので、今後も自立支援協議会と社会福祉協議会の立場で協力していきたい。

(委員) 県の方針について、市が下支えとなって実施していく。その中で地域活動支援事業も地域の中で一丸となって底を支えるということをしばらくはやり続けなければならないと感じている。

(委員) 今までは鎌倉市医師会の公衆衛生理事として、障害者やその家族の立場に立って考えていたが、行政側の視点を経験することで、両方の立場にたって考えることができ、良い経験になった。

(委員) B型を使った後に一般就労した人から、生活スタイル確立のために再びB型を使いたいと言われたことがあり、生活支援センターとして利用してもらったことがある。生活は表裏一体であり、制度で補えない部分に知恵を使って運用でカバーするのがポイントだと思っているので、今後も支援していきたい。

(委員) 鎌倉市歯科医師会では、一年のうち約10ヶ月の木曜日に障害者施設で検診を行っており、年々受診者の数が増加している。これらの鎌倉市の障害者を支えている土台になっている計画なので、今後も協力していきたい。

(委員) 障害者当事者として意見できる場があることが、非常に良いこと

だと思う。また、市職員は異動があるので、職員間の引継ぎも重要だと感じている。

(委員) 計画となると国や県との整合性をもたせなければならない部分もあるが、鎌倉独自のものがあってもよいのではという意見があったが、限られた資源と人であっても、使い方次第で障害者を中心とした支え方が出来ると思うので、自立支援協議会と連携していくことが望ましいのと考えている。法改正に振り回されるという意見があったが、地域活動支援センターだからこそ隙間を埋めるような支援ができたのではないかと思う。当事者が必要としているサービスは変わらないので、そういう視点で計画を作っていきたい。

(事務局) 計画の今後のまとめ方について、さらにご意見等何かあれば別紙にて連絡してもらい、最後は委員長に一任するということがよいか。

(全委員) 一任する。

(事務局) それでは、3月末までに決裁を得て、市の計画として確定していきたいと考えている。推進委員の任期は、条例により平成27年11月30日までとなっているので、引き続き平成26年度の推進状況報告書の審議をお願いしたい。